

2022年度 鉄道事業設備投資計画 安全対策、サービス向上、環境対策などに総額 245億円

- ✓次世代新宿線に向けた投資を継続して実施
- ✓沿線施設の開業に向けて池袋駅・豊島園駅をリニューアル

西武鉄道株式会社(本社:埼玉県所沢市、社長:喜多村 樹美男)では、お客さまへの安全・安心の提供を第一に、地域・社会と連携し、さらなる利便性の向上や快適なサービスの提供に努めています。2022年度は総額 245億円を投じ、安全対策、サービス向上、環境対策などの鉄道事業設備投資を実施します。

次世代新宿線に向けた改良として、連続立体交差事業や西武新宿駅の新たな地下通路整備計画を進め、新宿線沿線の安全性・快適性向上を推進するほか、沿線施設の開業に向けて池袋駅・豊島園駅のリニューアルを実施します。

《2022年度の鉄道事業における設備投資の概要》

1. 安全対策

鉄道事業では、お客さまの安全の確保を最重要課題として安全対策投資に重点をおきます。

(1)踏切の安全性向上

- 高規格な踏切支障検知装置の設置、特殊信号発光機 ATS 連動化、新しい安全対策の研究

(2)輸送の安全性向上

- 列車無線装置の更新、法面の改良、落石防護設備の設置

(3)新宿線連続立体交差事業の推進

- 【事業中】中井～野方駅間、東村山駅付近 【準備中】井荻～西武柳沢駅間、野方～井荻駅間

2. サービス向上

お客さまのさらなる利便性・沿線価値向上のために、駅のリニューアルや地下通路整備計画の推進、車両の増備を推進します。

(1)沿線価値・利便性向上

- 池袋駅・豊島園駅のリニューアル、西武新宿駅 新たな地下通路整備の計画

(2)車両の快適性向上

- 40000系車両の増備(3編成 30両)

3. サステナビリティアクション

西武グループ CO₂削減目標達成に向けたサステナビリティアクションとして、引き続き、40000系車両の増備やLED照明の導入による省エネルギー化などの環境対策を推進します。

詳細は、別紙のとおりです。



豊島園駅 新駅舎イメージ



40000系車両

【別紙】

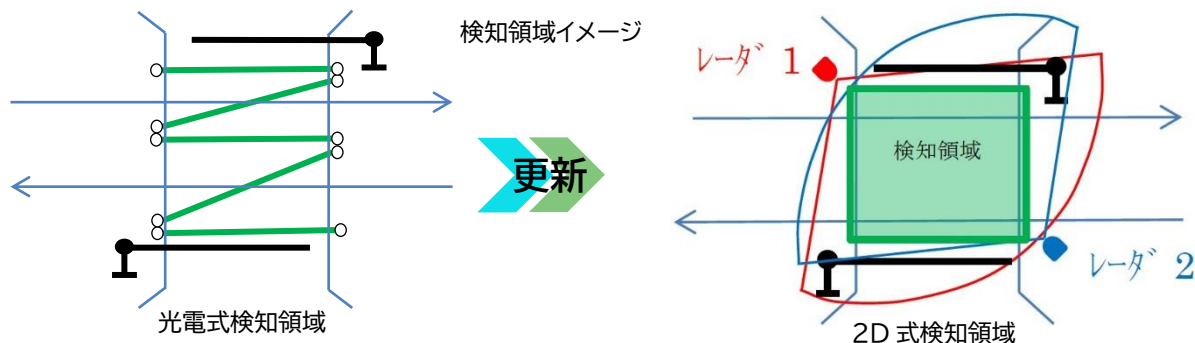
1. 安全対策

お客さまの安全の確保を最重要課題としてとらえており、今年度も安全性向上への設備投資を実施します。また、安全で快適なまちづくりを目指して、連続立体交差事業を推進してまいります。

(1) 踏切の安全性向上

・高規格な踏切支障検知装置の設置

踏切支障検知装置の高規格化を進め、従来の「線」で検知する方式(光電式)から、「面」で検知する方式(2D式)に更新することにより、検知能力を向上させて安全対策を強化します。今年度は新設1カ所・更新10カ所、計11カ所の踏切へ設置予定です。



・特殊信号発光機 ATS 連動化

踏切安全対策として、特殊信号発光機(踏切内の異常を運転士に知らせる信号)とATS(自動列車停止装置)を連動させ、事故防止を図ります。昨年度までに5カ所の踏切への設置が完了しており、今年度はリスクの高い踏切から順次設置していきます。

・新しい安全対策の研究

踏切鳴動後に踏切道を渡りきれない通行者への安全対策を研究しています。昨年より、人や自転車の通行が比較的多い3カ所の人道踏切にて、「踏切滞留AI監視システム」と「3D画像解析踏切監視システム」の導入試験を実施しておりますが、試験結果、導入効果を分析し、今年度の本格導入を目指します。

(2) 輸送の安全性向上

・列車無線の更新

輸送の安全を確保するため、列車保安に関わる通信・通話を行う設備である列車無線装置を、既存のアナログ方式からデジタル方式へ更新します。これにより音声通話品質の向上や同時通話数の増加、セキュリティの向上が見込めるほか、将来的には文字による運転士への通告が可能となります。

・法面の改良

列車運行の安全を確保するため、線路に面した法面などを改良することで斜面の安定化を図り、土砂崩壊を防止します。今年度は、西吾野～正丸駅間で実施します。

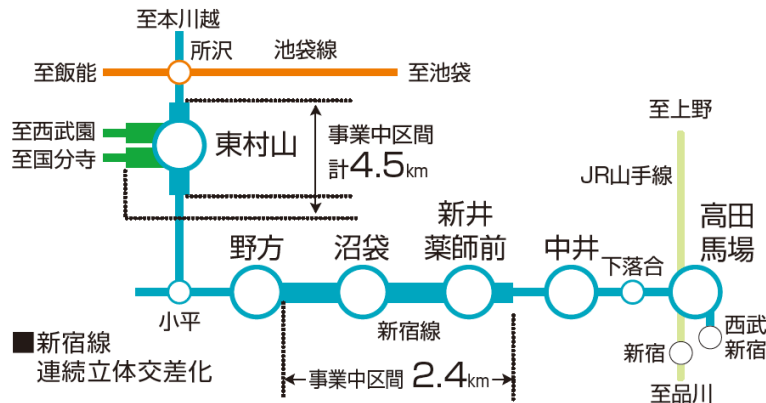
・落石防護設備の設置

線路に面した斜面からの落石が列車に衝突するのを防ぐため、線路に沿って落石の進入を防止する柵を設置します。今年度は、東吾野～吾野駅間で実施します。

・入間川橋梁の改修

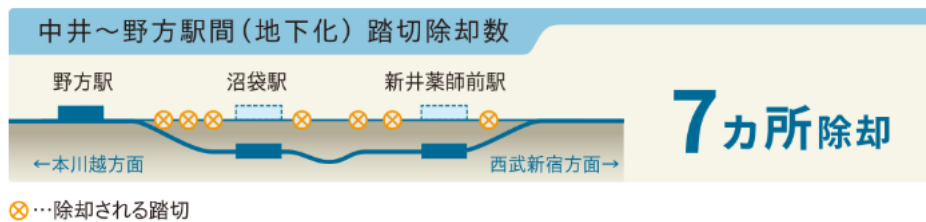
仏子～元加治駅間の入間川橋梁において、橋脚を防護する護床コンクリートの改修工事中です。今年度も引き続き工事を実施し、年度内に改修が完了する予定です。

(3)次世代新宿線に向けた連続立体交差事業の推進



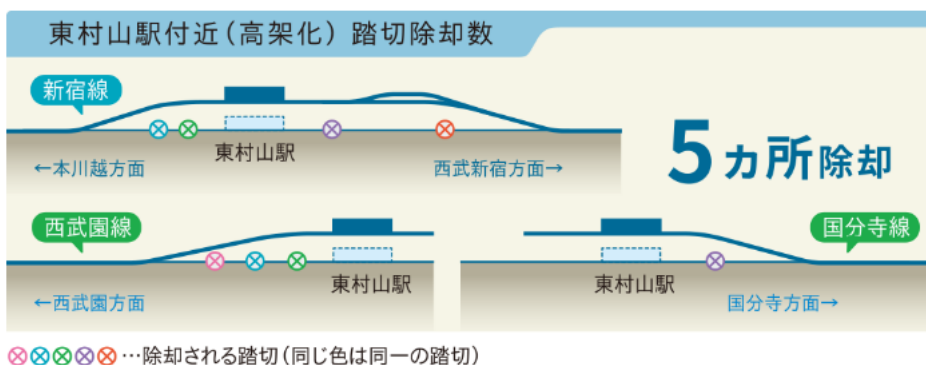
・中井～野方駅間連続立体交差事業(地下化)

2011年8月に都市計画決定され、2013年4月に事業認可を取得、2014年1月に工事に着手しました。今年度は引き続き、駅部・一般部の仮設工事および駅部の掘削工事を行います。この事業が完成すると7カ所の踏切が除却され、踏切での慢性的な交通渋滞の解消、道路と鉄道それぞれの安全性の向上、また鉄道により分断されていた地域の一体化が図られるとともに、連続立体交差事業を契機とした駅前広場などの整備が促進されることで、快適なまちづくりに寄与します。



・東村山駅付近連続立体交差事業(高架化)

2012年10月に都市計画決定され、2013年12月に事業認可を取得、2015年1月に工事に着手しました。今年度は引き続き、新宿線他の駅部・一般部の高架橋構築工事や新宿線の仮線路切替工事を行います。この事業が完成すると5カ所の踏切が除却され、踏切での慢性的な交通渋滞の解消、道路と鉄道それぞれの安全性の向上、また鉄道により分断されていた地域の一体化が図られます。



・井荻～西武柳沢駅間および野方～井荻駅間、早期事業化に向けた準備

井荻～西武柳沢駅間は、2021年11月に東京都により高架方式で都市計画決定されました。野方～井荻駅間は、2016年3月に東京都により新規に着工を準備する区間として社会資本総合整備計画に位置付けられました。引き続き、連続立体交差事業の早期事業化に向けて、事業主体である東京都や地元自治体と協力し、新宿線沿線の安全性・快適性向上を推進します。

2. サービス向上

池袋駅、豊島園駅において、「ワーナー ブラザース スタジオツアー東京 - メイキング・オブ ハリー・ポッター」(以下、スタジオツアー東京)の2023年開業(予定)に向けたリニューアルを行います。

また、西武新宿駅と東京メトロ丸ノ内線新宿駅をつなぐ新たな地下通路について、早期実現に向け、具体的な検討および関係者との協議を進めるほか、40000系車両を増備し、より安全で快適な車内空間を提供します。

なお、特急券/座席指定券の発売システムにおいては、より快適・便利にご利用いただけるよう、お客さま同士の間隔を確保した座席の自動発売、ご利用状況のデータ化によるサービス改善、およびポイントシステムとの連携など、現在、システムの改良に向けた準備を進めております。

(1)沿線価値・利便性向上

・池袋駅のリニューアル

池袋駅では、池袋～豊島園駅間を走る列車が主に発着する1番ホーム(降車ホーム)ならびに2番ホーム(乗車ホーム)を、英国・ロンドンにある「キングスクロス駅」を彷彿とする意匠にすることで、スタジオツアー東京への玄関口として、期待感を醸成します。



池袋駅2番ホームイメージ

・豊島園駅のリニューアル

豊島園駅では、ホームをホグワーツ魔法魔術学校へ向かう「ホグズミード駅」を彷彿とした赤を基調としたデザインに改修します。

また、既存駅舎の駅前広場側に駅舎を新築し、普段からご利用されるお客さまにも、スタジオツアー東京に訪れるお客さまにも、親しみを持っていただけるような駅を目指します。



豊島園駅 ホームイメージ

・西武新宿駅 新たな地下通路整備の計画

昨年度、西武新宿駅からつながる新宿サブナードとメトロプロムナードを結ぶ新しい地下通路が、新宿区により都市計画決定されました。これを受け、今年度も引き続き本通路の早期実現に向け、具体的な検討および関係者との協議を進めます。

本通路の開通により、西武新宿駅をご利用のお客さまの新宿駅(JR線・東京メトロ丸ノ内線)との乗換利便性および、まちとまち、駅とまちの回遊性の向上を目指していきます。



位置図

(2)車両の快適性向上

・40000系車両の増備

2017年3月にデビューし、車いすやベビーカーをご利用のお客さまや大きな荷物をお持ちのお客さまにも便利な「パートナーゾーン」や車内防犯カメラを設置した40000系車両を3編成(30両)増備します。



車両外観



パートナーゾーン

<参考>

■乗車ポイントサービスの導入

新しい生活様式や多様化する通勤スタイルを広くサポートするため、2022年7月より、乗車ポイントサービスを開始します。平日朝に特定の条件でピーク時間帯を避けて乗車するとポイントが貯まる「オフピークプラス」と、西武線沿線の観光地やイベント等へおでかけの際に特定の条件で西武線に乗車するとポイントが付与される「おでかけプラス」の2種類を設定し、時差通勤の推進・混雑緩和や新しい生活スタイルに応じたおでかけのサポートを目指します。

https://www.seiburailway.jp/railways/seibujoshapoint/?cid=ontoushirelease_2022

3. サステナビリティアクション

西武グループでは、グループの経営理念である「グループビジョン」に基づき、SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)への貢献を意識し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを「サステナビリティアクション」として積極的に推進しています。地球温暖化抑制へのさらなる貢献に向けて、CO₂ 排出量原単位(営業収益当たり CO₂ 排出量)をグループ全体で2030年度までに2018年度比25%削減という環境負荷削減目標を設定しています。西武グループ CO₂ 削減目標達成に向けたサステナビリティアクションとして、引き続き、省エネルギー化などの環境対策を推進します。

・40000系車両の増備

最新技術のモーターの採用などにより省エネルギー化・低騒音化した車両である40000系新型通勤車両を3編成(30両)増備することで、環境対策を推進します。

・LED照明の導入

LED照明は消費電力が低くCO₂排出量削減の効果が期待できるため、駅や車両へのLED照明の導入を進めています。今年度も引き続き、照明器具の取替に合わせてLED照明を導入します。

- ※ 新型コロナウイルス感染拡大等の影響により、今後の事業環境に変化が生じた際には、本計画の見直しを行う場合がございます。
- ※ お客さまに安心して鉄道をご利用いただくために、新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けたさまざまな取り組みをおこなっており、ホームページ(<https://www.seiburailway.jp/>)にて公表しています。

◇お客さまのお問合せ先

西武鉄道お客さまセンター TEL.(04)2996-2888

音声ガイダンスのご案内により、メニューをお選びください。

[営業時間：全日 9 時～17 時(12/30～1/3 を除く)]

以 上